

学校経営方針(中期経営目標)	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
教育方針「人間性」「先駆者精神」「克己」の理念をあらゆる教育活動に活かし、知・徳・体のバランスに配慮した生徒一人一人の学力の向上と個性の伸長を図り、地域社会から期待される人材の育成を図る。スーパーグローバルハイスクールの指定をもとに、グローバルリーダーを育成するための5つの力「価値創造力・協働力・突破力・寛容力・教養力」を育む。 平成22年度策定「Mission Statement」の実現 ◆ミッション「自律する人間」の育成 ◆ビジョン ○育てる生徒像…克己心・挑戦・自己理解・目標の設定と達成・夢の設計と実現 ○実行する教育…考える力育成・克己への支援・心身の鍛練・社会性育成 ◆長期目標 ○在校生…課題を発見し、考え、まとめ、発信できる。 ○卒業生…母校に誇りを持ち、社会に貢献する。 ○中学生…夢が叶う高校として憧れる。 ○教職員…夢を共有し、ビジョンの実現を目指し、協働する。	○学力向上：探究活動の指導法が確立し、生徒達がスムーズに探究を進められるようになった。本年度は探究の質を高めていく必要がある。「鳥羽の学びネットワーク」を活用した取組も充実できており、教科の年間指導計画との関連をさらに深めていきたい。新学習指導要領が求める学力の向上についての研究が課題である。 ○礼儀：金学年とも挨拶、服装、言葉遣いが正しくできた。マナーや時間を守ることを重点的に指導する必要がある。 ○SGH：指定最終年度を迎えるにあたり、5年間の取組をまとめるとともに、研究成果の普及のため、他校の教員、生徒が参加できる取組を推進する必要がある。 ○人権意識等：啓発活動を通じて落ち着いた学習環境を保った。スマートフォン、携帯電話の使用マナーについては継続して指導にあたる必要がある。 ○部活動：体育系・文化系ともに熱心に取り組む、全国大会へ出場する部も多くあった。学習と部活動の両立を引き続き目指していく必要がある。また、より短時間で効果的な活動方法についての研究をすすめていかなければならない。 ○広報活動：生徒が主体的に運営する学校説明会やHPのリニューアル等を実施し、特色ある教育活動をより広く広報することができた。より効果的な広報について研究を進める必要がある。	平成22年度策定の「Mission Statement」と新たなミッション「グローバルリーダー育成」の目標達成のために、組織体制をさらに充実させ、以下の点を重点として実践する。 (1) 規律ある中で互いに助け合い切磋琢磨する質の高い学習集団を作り、組織的・計画的な進路指導により生徒の進路実現を図る。また、新学習指導要領について、探究活動を生かした大学入試などの高大接続について組織的な研究を進める。 (2) スーパーグローバルハイスクール研究開発計画を完成させるとともに、成果を広く普及させる。 ①アクティブ・ラーニング等による統合的・発展的なリベラルアーツ教育を推進し、基礎的な学力を充実させるとともに、思考力、判断力、表現力を高める。 ②イノベーション探究、グローバル・コンピテンシー育成、鳥羽の学びネットワーク、リベラルアーツの各研究グループが、効果的に連携しながら計画的かつ組織的に取組を実施する。 ③他校の教員、生徒が参加できる行事を増やし、研究成果の普及に努める。 ④指定終了後の具体的取組についての研究を進める。 (3) 3年目を迎えるグローバル科の専門科目や教育活動をさらに充実させ、成果を広く普及させるとともに、第1期生の希望進路を実現させる。 (4) あらゆる教育活動において人権感覚を涵養するとともに、人や社会とつながり、共生するための力をつけ、地域社会の一員としての自覚を高める。 (5) 部活動を通して、各部の目標達成をめざすとともに、自律する人間の育成と個性伸長を図る。 (6) 本校の教育実践や生徒の活動を積極的に広報することにより、教育活動の活性化を図る。 (7) ソサエティ5.0を見据え、ICTの利活用の研究を進める。

評価領域	重点目標	具体的方策	総括	成果と課題
学習指導	リベラルアーツ教育を推進し、生徒の学力・教養力向上を図る。	あらゆる教育活動を通じて思考力・判断力・表現力を養い、生徒一人一人が主体的に課題を設定し自学自習に取り組むよう指導する。		
		「鳥羽の学びネットワーク」を活用した効果的な教科指導（アクティブ・ラーニング等）により、学びの質や深まりを強化する。		
		学科やコースの特色に応じた教育計画を策定、実施し、学習状況調査、授業評価、学力状況等により検証を行う。		
生徒指導	ルールとマナーを守らせる。	基本的生活習慣の確立、安全指導及び問題事象の未然防止について、その目的・基本姿勢を確認し、教職員が一致した基準・方法で指導する。		
		あいさつを交わす、正しい言葉を遣う、身だしなみを整えることは、マナーの基本であることを理解させ、実践できるよう指導する。		
		生徒会、各種委員会、クラス活動、ボランティア活動などを通じて、協働する力を養う。		
		部活動を通して、技能を修得するだけでなく、思考力・判断力・表現力を育成し、主体性・意欲の向上につながるよう指導する。チーム内で切磋琢磨し、より高い目標を設定し、突破する力を養う。		
	組織的にいじめの未然防止を図る。	ルールとマナーを守り、互いに尊重しあう人間関係を築き、違いを認めあう寛容心を育てる。		
		各種イベントやボランティア活動への参加を促し、社会貢献への意識を高める。		
人権教育	あらゆる教育活動を通して人権教育を推進する。	いじめについての理解を深め、「いじめ防止対策推進法」「京都府いじめ防止基本方針」「鳥羽高等学校いじめ防止基本方針」に則り、いじめ対策委員会を中心に組織的にいじめの未然防止、早期発見を図る。		
	生徒一人一人の進路希望を実現する。	人権問題を自分自身の課題としてとらえ、インターネットの普及に伴い多様化・複雑化する人権問題の解決に向けた人権教育の推進と教職員研修を充実させる。		
進路指導	職業観・勤労観を育成する。	分掌、教科との連携のもと、組織的な指導体制により、個に応じたきめ細かい進路指導を行う。		
	職業観・勤労観を育成する。	望ましい職業観・勤労観を身につけさせ、主体的に進路を選択する能力・態度を身につけさせるため、計画的・継続的に進路指導・キャリア教育を行う。		
情報教育	望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を育てる。	SNSやインターネットの効果的な活用方法についての意識を高め、スマートフォン、タブレット等の使用についてのマナーを身につけさせる。		
グローバル人材育成	SGH指定校・グローバルネットワーク京都校として、グローバル・リーダーの素養を涵養する。	平常の授業に加え、海外学校の来校等の機会を活用した国際交流や、論文コンテスト、英語プレゼンテーション大会等を通じて、国際的視野を持って思考・判断・表現する力を育成する。		
保健・特別支援	健康の保持増進と支援の必要な生徒の課題解決に必要な学校環境作りを進める。	検診等の結果を踏まえ、生徒の心身の健康の保持増進に努め、学校における保健管理、安全管理を適切に進めるとともに、支援の必要な生徒の教育的ニーズに応じて学習上、生活上の困難を改善する。		
読書指導	読書活動を推進する。	図書館利用を促進して読書活動を活性化し、豊かな教養と広い視野を育てる。		
家庭・地域社会との連携	家庭・地域・社会との連携と交流を積極的に行う。	HPをはじめ、説明会や出版物等を通じ、本校の教育活動に関して幅広く積極的な情報発信を行い、本校への理解を深める。		
施設設備・文書・情報管理	学習環境の質を確保する。	生徒の安全を確保するとともに、よりよい教育環境づくりに向けて施設・設備の充実を図る。		
	個人情報に配慮した文書管理・情報管理を行う。	紙文書、デジタルデータともに、個人情報に配慮した適切な文書管理・情報管理を行う。		

評価の基準 A：十分達成できている。（目標以上の成果が得られている。） B：ほぼ達成できている。（ほぼ目標通りの成果が得られている。） C：達成できているとは言えない。（成果はあったが、目標は達成できていない） D：ほとんど達成できていない。（ほとんど成果が得られていない。）

学校関係者 評価委員会 による評価	
次年度に 向けた改善 の方向性	